

☆ みんなの前で叱る の巻 ☆

みんなの前で叱る事。これは先生方には常識なのですが（皮肉ではありません）、子どもを叱るときは、「一対一の場」を設けマからにしましょう。大勢の前で叱るのはパワハラに当たります。子どもを公共の場、例えばスーパーやファミレスで叱るのはやめましょう。

子どもにもプライドがあり、みんなの前で恥をさらされると心に傷を負ってしまうことがあるからです。前にも述べたように、感情的な叱り方は逆効果です。「こういう理由があるから、やめマおいた方が良いよ」「こうやるとマイナスだから、こうシマはどうかナ」など、なぜ良くないのか、分かるように声掛けシマください。

普段から一対一で話す場を作り、お互いが考えていることを話せるようにシマおくと良いと思います。叱るより、意見交換をするのだという意識を持ってると、落ち着いて話が出来はず。 | ここまでは“飯山暁朗著・こどものメンタルは4タイプ”の紹介文に、こどもの叱り方について書かれマありましたので、一部をまとめたものを転載させマいただきました。 |

☆

先生方がみんなの前で叱らない（ように努力シマている）のは、そうシマしまうと、先生がいけない所では先生に代わっマみんなが、その子を悪く言うお墨付きを与える事になりかねないからです。

同様に、もしもあなたが、他のきょうだいの前で「ホント！ダメな子!!」みたいに言い捨マるしかり方をシマていると、とくに年下のきょうだいからその子は“ダメな子”と思われかねないからです。

私の経験ですが、教室で、みんなの前で叱られると、先生のお叱りは頭の上を通り過ぎマ行くのです。うつむいて、後ろや横をチラリとのぞいて、みんなが自分を笑ってないか、そればかりが気にシマいました。

☆☆

同じ失敗をしがちな子は、失敗シマも気持ちの切り替えが早く、長く引きずりません。悪く言うと同じ過ちを繰り返すことが多いタイプなのです。“先生の気が済んだら、すべマご破算”、だと思っマから。（私はさらに、笑った友だちをしっかりと覚えマおくタイプでした。もちろん、ただでは済ませません）



この時に大事ななのは、「どうシマ失敗シマったか」一緒に考えマあげる事です。考えるのが難しい子には、「どうシマったのか」を尋ね、「それならこうシマたら良いよ」など、もっと良いやりかたを教えマあげるのです。それは、聞いてる他の子の参考にもなります。

成功するまで続けたらそれは、失敗ではなく、練習